



花咲スポーツ公園再整備基本計画 中間とりまとめ（案）

令和7年（2025年）10月

旭川市

ASAHIKAWA
CITY



－ 目次 －

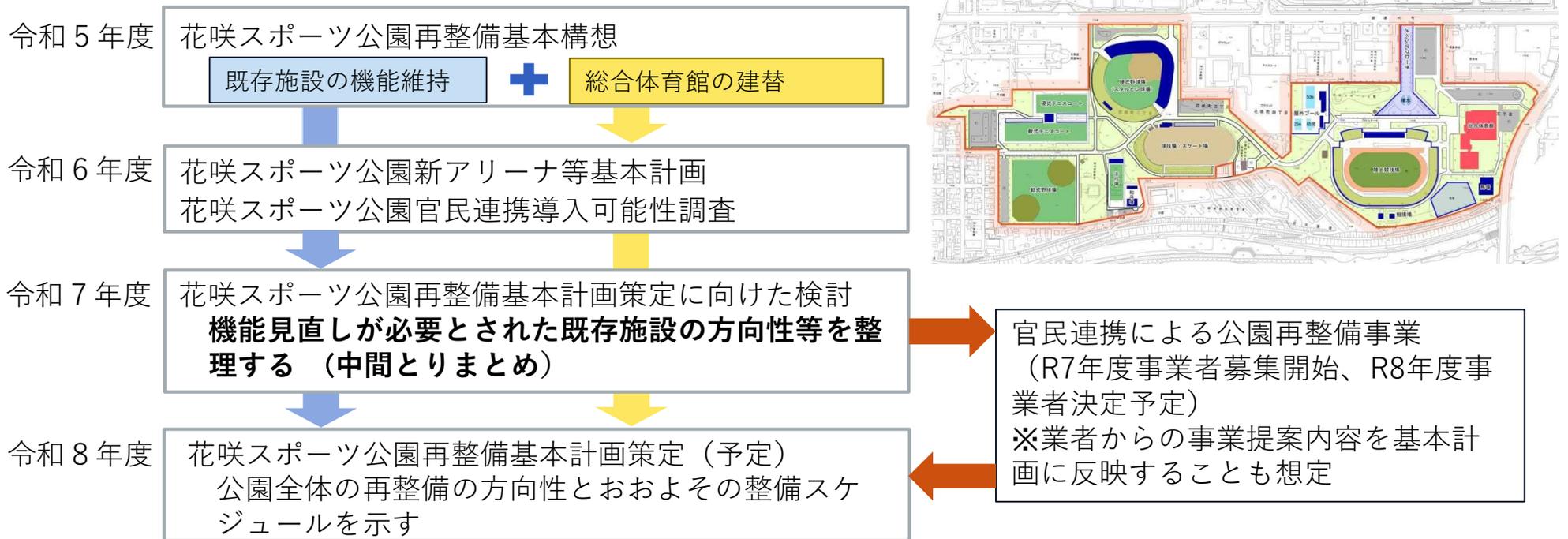
1	経緯・目的1
2	花咲スポーツ公園スポーツ施設の概要・利用人数の推移2
3	花咲スポーツ公園再整備基本構想の概要3
4	新アリーナ等基本計画において整理した施設5
5	今回見直しをする施設6

1 経緯・目的

花咲スポーツ公園再整備基本構想に基づき、昨年度、花咲スポーツ公園新アリーナ等基本計画を策定し、総合体育館と公園の北西側の一部施設について再整備の方針を定めました。

今年度は、再整備基本構想において「機能見直しが必要とされた既存施設」については、市民利用について影響が大きなことから先行して整備方針を整理することとしました。（中間とりまとめ）

令和8年度には、公園再整備の事業者が決定する予定であることから、事業者からの提案や整備スケジュールとも調整し、これまでの内容や残りの既存施設の整備方針をとりまとめた公園再整備基本計画を策定する予定です。



2 花咲スポーツ公園スポーツ施設の概要・利用人数の推移

- ・令和7年3月末（2025.3.31）時点において、各施設は開設から35年以上経過している。
- ・利用人数の推移において、R2、R3は新型コロナウイルス感染症の影響が見られるが、R6では、概ねコロナ前の人数に回復している。

施設名	2025年時点		施設概要	利用人数推移						
	設置年	経過年		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
総合体育館	S54.10.1	46	アリーナ面積1,812㎡, 観客席1,494席, バレーボール3面, バスケットボール2面, 卓球24面, テニス3面, ハンドボール1面, 体操競技	163,382	148,041	84,943	95,573	143,543	178,251	198,184
スタルヒン球場	S59.4.1	41	面積25,300㎡(プレーグラウンド13,300㎡) 内野:黒土, 外野:天然芝, 両翼:95m, センター120m, 内野・外野スタンド, スコアボード, ナイター設備, 収容人数:25,000人	95,523	95,033	15,896	38,218	74,209	40,530	43,357
軟式野球場	S63.11	35	面積18,313㎡(グラウンド2面), 内野:クレー舗装, 外野:芝生舗装, ナイター設備(1面)	28,995	20,256	10,772	11,378	23,295	18,830	19,899
陸上競技場	S57.9.23	43	第2種公認陸上競技場, 面積34,000㎡,トラック・フィールド(全天候型), メインスタンド(管理棟), 収容人数16,500人	52,373	54,781	30,096	35,183	5,101	56,269	51,264
馬場	S56.2.1	45	屋外馬場(4,950㎡, 砂深15cm) 屋内馬場(延べ面積1,225㎡), ※屋内馬場内に事務室, 厩舎等含む	4,949	4,593	4,243	3,666	6,200	5,927	5,331
洋弓場	S59.4.1	41	面積3,193㎡, 的場兼倉庫(標の数12的), 射距離(30.50.60.70.90m競技用)	5,611	4,935	2,396	2,123	3,920	3,311	2,927
弓道場	S64.1.5	37	面積2,100㎡, 射場管理棟, 的場(12人立用, 距離25m)	15,751	15,470	9,311	8,738	11,646	14,135	14,164
球技場	S60.4.1	40	面積21,000㎡(プレーグラウンド14,935㎡), クレー舗装, ナイター設備, スコアボード, 管理棟, 倉庫, 器具庫, 収容人数:9,316人	10,808	12,086	3,766	4,627	9,116	9,037	10,460
硬式テニスコート	S60.4.1	40	全天候型砂入人工芝コート:8面, ナイター設備:6面, 管理棟(軟式と共通)	61,364	58,898	41,091	35,170	54,242	53,956	60,482
軟式テニスコート	S63.4.1	37	全天候型砂入人工芝コート:10面, ナイター設備:6面, 管理棟(硬式と共通)	86,961	82,503	50,941	41,424	61,024	63,030	74,759
プール	S61.9.30 (50mプール H1.10.30)	39 (36)	幼児プール(333㎡, 深さ0.3~0.4m), 25mプール(25×15m 7コース, 深さ1.0~1.2m), 50mプール(50×21m 8コース, 深さ1.4~1.6m), 各種設備, 管理棟	3,958	4,181	4,063	6,909	5,467	6,831	6,431
相撲場	S61.10.31	39	面積1,400㎡, 管理棟, やぐら・土俵, 収容人数900人	0	0	0	0	0	50	0

3 花咲スポーツ公園再整備基本構想の概要

■花咲スポーツ公園の課題

1 施設の老朽化

- ・建設から30年以上経過した施設が多く耐用年数を超える設備等への対応が必要

2 多様化するニーズへの対応不足

- ・売店が少なくトイレは和式が多いなど利便性が低く多様化する昨今のニーズに対応しきれしていない状況
- ・防災拠点としての機能強化

■花咲スポーツ公園再整備に向けた基本的な考え方

【再整備にあたって考慮すべきポイント】

- ・全道大会等の大規模大会開催頻度の高い施設の優先的な施設更新の検討
- ・老朽化が著しく使用に支障がある施設の優先的な施設更新の検討
- ・スポーツ利用者だけでなく幅広い市民が楽しむことのできる施設となるよう、リニューアルや新たな施設の設置を検討
- ・災害時の避難環境の整備を検討 ・官民連携による財政負担の軽減と平準化を検討

各施設の今後の方向性（2本の柱）

既存施設の機能維持

【既存機能維持施設】

既存施設の規模や機能をそのまま維持していく施設

- > スタルヒン球場、陸上競技場、テニスコート（硬式8面 軟式10面）、軟式野球場（2面）、弓道場、洋弓場

【既存機能見直し検討施設】

ニーズ等の変化により機能の見直し検討が必要な施設

- > 球技場（サッカーコート1面 冬期スケート場）、プール（50m・25m・幼児用）馬場、相撲場、メインアプローチ、遊戯施設、駐車場（公園内約750台）

建替え＋新たな機能導入検討施設

再整備に際し、新たな機能の導入を検討する施設

- > 総合体育館 + 新たな要素の追加（防災機能強化等）

今回、見直し内容を整理する施設
（一部、新アリーナ等基本計画において整理済み）

花咲スポーツ公園新アリーナ等基本計画（令和6年度策定）

3 花咲スポーツ公園再整備基本構想の概要

■既存機能見直し検討施設の課題・基本的整備方針

<p>球技場/スケート場</p> <p>>1985(S60)年設置 >9,116人(R4実績)_夏期 >4,022人(R4実績)_冬期 >ナイター環境での練習などで利用され、冬期はスケート場として利用されている。</p> 	<p>【課題】 経年劣化による施設が老朽化。管理棟の改修やナイター照明の更新も喫緊の課題。また、競技環境向上のため人工芝が求められ、スケート場との両立に課題がある。スケート場についても昨今の温暖化等気象状況の変化から屋外での安定した環境維持が難しい状況。</p> <p>【基本的整備方針】 昨今の球技競技のニーズに対応するため人工芝化の検討と、屋外スケート場のあり方について検討する。</p>	<p>屋外プール 50m・25m・幼児用</p> <p>>1986(S61)年設置_25m >1989(H1)年設置_50m >5,467人(R4実績) >レクリエーション目的での利用が多く、特に小学生以下の市民に利用されている。</p> 	<p>【課題】 経年劣化による施設が老朽化。管理棟の改修やプール槽の塗装更新も喫緊の課題。屋外のため夏期2ヶ月間のみの開設で、利用者数も低下しており、現状維持の施設改修でも数億円規模の事業費を要する。利用状況に応じた施設規模の見直しが必要。</p> <p>【基本的整備方針】 現状の利用形態に合わせて、プール機能を維持しつつ、規模の見直しも含めて改修計画を検討する。</p>	<p>メインアプローチ</p> <p>>1990(H2)年設置</p> 	<p>【課題】 平板ブロックがガタつき平坦性が損なわれ、歩行などに支障を来し、噴水施設についても老朽化が進行、全面的な改修が必要な状況。</p> <p>【基本的整備方針】 公園全体の動線計画見直しと合わせて再整備を検討。また噴水施設は遊戯施設の改修と合わせて賑わいに繋がる整備を検討。</p>
<p>相撲場</p> <p>>1986(S61)年設置 >0人(R4実績) >過去には大会が開催されるなど利用が見られたが、近年では利用実績が無く、市内競技団体も解散している。</p> 	<p>【課題】 経年劣化による施設が老朽化。やぐらの改修などが必要な状態ではあるが、利用ニーズも無いことから施設存廃の検討が必要。</p> <p>【基本的整備方針】 利用ニーズも見込めないことから施設廃止を検討する。</p>	<p>馬場</p> <p>>1981(S56)年設置 >6,200人(R4実績) >馬術競技の練習や乗馬体験など幅広い利用があり、近年利用が増えている。</p> 	<p>【課題】 屋内馬場は築年数が40年を超え老朽化が進行し、耐震基準を満たしていない状況。設備的な面でも各所で不具合が見受けられ、安全に利用できる環境が維持できない状況。</p> <p>【基本的整備方針】 施設の建て替えを基本に適正な規模の施設に再整備を検討する。</p>	<p>遊戯施設</p> 	<p>【課題】 経年劣化による施設が老朽化。立地環境からも利用しにくい状況。</p> <p>【基本的整備方針】 公園全体の動線計画見直しと合わせて再整備を検討。また噴水施設は遊戯施設の改修と合わせて賑わいに繋がる整備を検討。</p>

4 新アリーナ等基本計画において整理した施設

新アリーナ等基本計画「第3節 導入機能・規模」、「第4節 公園北東側エリアの整備方針」より

■相撲場・馬場

- ・相撲場は、ここ数年の利用がほとんどなく、**今後の利用が見込めないことから廃止します。**
- ・馬場は、市民や観光客が手軽に乗馬を楽しむことができる施設であり、**賑わいや交流の拠点として期待できることから、相撲場の跡地を含めた陸上競技場東側に再整備します。**

■遊戯施設 ⇒ キッズパーク

- ・多様な世代が日常的に利用できる公園を目指し、こどもたちが遊べる噴水や複合遊具等の**遊戯施設を新たに整備します。**

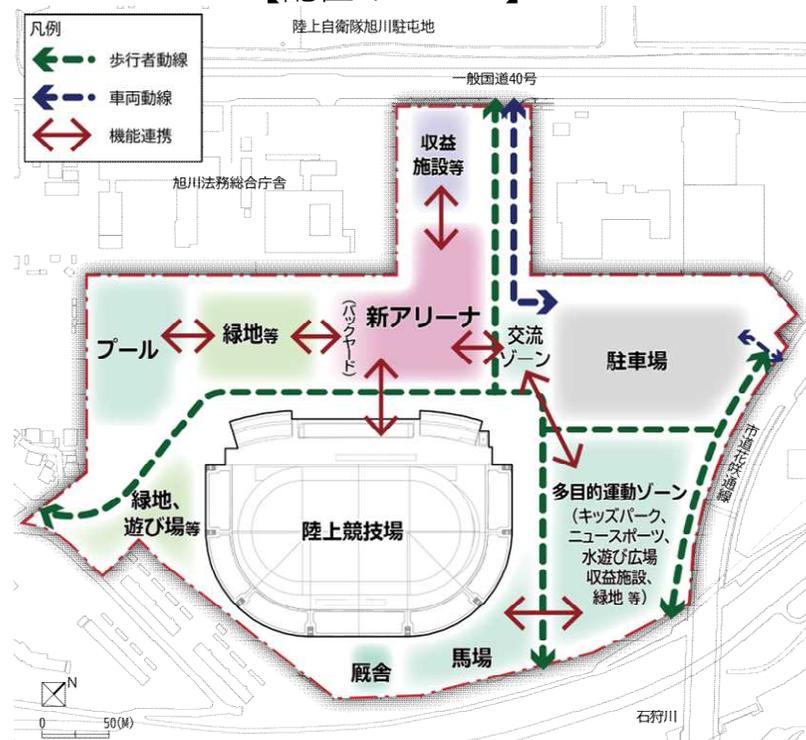
■駐車場（北西側）※現在376台分

- ・現総合体育館や公園内の屋外スポーツ施設で開催されている大会では、概ね2,000人以下の参加人数となっているため、それを満足する駐車台数として**約500台の駐車台数を確保**することとします。
- ・新アリーナでの5,000人規模のイベント開催時など、公園内で全ての駐車場需要を満たす駐車台数の確保は困難なため、公共交通機関の利用を促すとともに、**周辺での臨時駐車場の確保、シャトルバスの運行などの方策を検討**します。

■メインアプローチ ⇒ 新アリーナ、収益施設

- ・新アリーナは、国道40号からの視認性確保と公園内の動線の結節点となる位置に配置。収益施設は、公園外からの視認性が高く、利用しやすいメインアプローチ付近での設置を想定。
- ・公園北東側エリア全体の回遊・連携動線の整備や駐車場配置の最適化を図り、**メインアプローチ等を含む外構を再整備**します。

【配置イメージ】



5 今回見直しをする施設（スケート場）

●施設概要

設置年度	スケート場 昭和59年12月（球技場 昭和60年4月）
面積	21,000㎡
管理棟	鉄筋コンクリート造2階建一部平屋建 1階：事務室、役員記録室、選手控室、放送室、便所、電気設備室、機械設備室 2階：会議室、更衣室（シャワー室）
グラウンド	クレー舗装 14,935㎡、ナイター設備6基
スケートリンク （冬季）	スピードリンク1周400m・幅13m・ダブルトラック フィギュアリンク50m×40m
収容人員	9,316人（メインスタンド1,316人 芝生スタンド8,000人）

※スピードスケートは競技規格、フィギュアスケートは競技規格外（現行基準）



※スケートリンクは天然氷による



●使用できる期間・時間（スケート場）

使用できる期間	12/20～2/末日
休館日	12/31～1/1
個人／専用	個人使用／専用使用
個人使用できる時間	10時～20時
専用使用できる時間	10時～20時

●使用料（スケート場）

区分	単位	使用料	
専用	全日	28,350円	
	2時間につき	5,670円	
個人	大人	1回	220円
		共通回数券（6回）	1,100円
		1月券	880円
	高校生	1回	150円
		共通回数券（6回）	750円
1月券		600円	

※中学生以下無料

5 今回見直しをする施設（スケート場）

スケート場は、近年の冬期間の気温上昇により安定した運営が難しくなっている。

●開設状況（令和元年度と過去3年の比較）

	R1	R4	R5	R6
	開設日数70日	開設日数69日	開設日数70日	開設日数69日
終日休場	0	19	19	19
時間休場	0	11	14	15
全日開場	70	39	37	35
終日休場割合	0.0%	27.5%	27.1%	27.5%
休場割合	0.0%	43.4%	47.1%	49.2%

●月別の休場状況

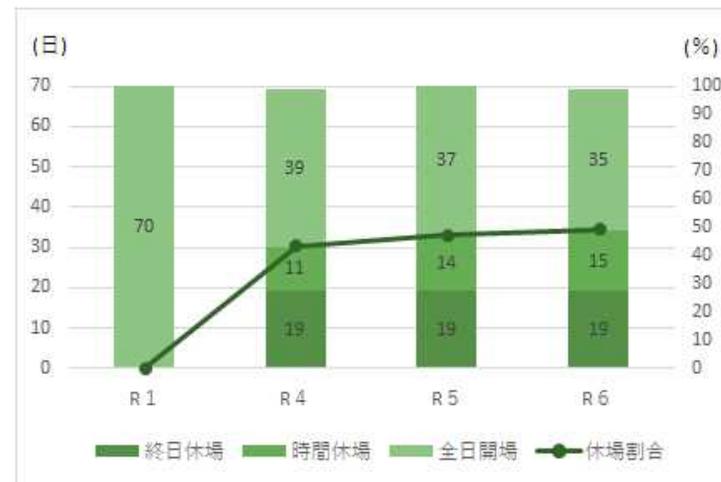
	12月		1月		2月	
	終日休場	時間休場	終日休場	時間休場	終日休場	時間休場
R4年度	11	0	5	1	3	10
R5年度	6	1	1	11	12	2
R6年度	1	0	9	5	9	10

令和4年度：降雪が遅くリンク造成ができず、オープンが年明けにずれ込んだ。

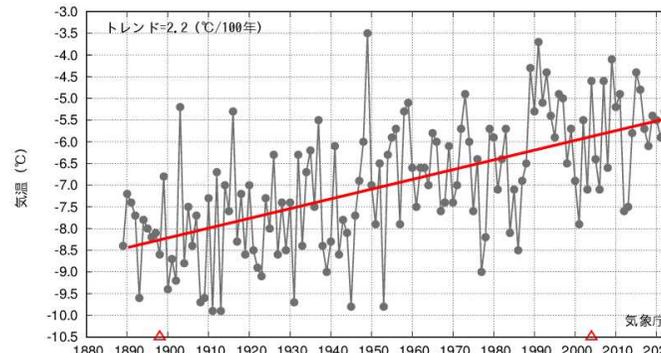
令和5年度：降雪が遅くリンク造成できずオープンが遅れた。2月に気温が上昇し、10日以上連続した終日休場があった。

令和6年度：1月後半以降、断続的に気温が上昇し終日休場、時間休場があった。

- 令和元年度までは条例上の開設期間のすべてが開設できていたが、過去3年間については、降雪の遅れによるオープン日の遅れや気温上昇によるリンクコンディション悪化による休場が発生。
- 終日休場と時間休場を合わせた休場日は、年々増加している。



■旭川冬平均気温 1889-2023年



出典：気象庁ホームページ^年

(https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html)

旭川市の冬平均気温は上昇傾向にあり、今後も気温の上昇による休場は増えると想定される。

5 今回見直しをする施設（スケート場）

スケート場の利用者は減少傾向にあり、スピードスケートなどの競技大会利用はほとんど行われていない。

●利用人数の推移

	H28	H29	H30	R1(H31)	R2	R3	R4	R5	R6	R6/H28
合計(人)	6,471	6,404	5,321	4,800	3,908	5,235	3,936	3,672	3,819	0.59
一般	2,104	1,854	1,653	1,508	1,264	1,914	1,337	1,204	1,410	0.67
高校生	284	311	259	200	201	316	236	173	190	0.67
小・中学生	3,049	2,918	2,689	2,178	1,816	2,118	1,848	1,759	1,562	0.51
その他(幼児,引率等)	1,034	1,321	720	914	627	887	515	536	657	0.64
開場日(日)	69	69	69	70	48	58	50	51	50	0.73



- ・新型コロナの影響を大きく受けたR2年度、R3年度を除くと、H30年度から緩やかに減少している。
- ・R6年度はH28年度の約6割。特に利用の割合が大きい小・中学生が減少している。

●利用の状況

- ・近年、スピードスケートの大会は実施されていない。H28～R6の間でH29年度の1回のみ。フィギュアスケートの大会は屋内リンクでの開催が主流となっており、旭川市内での大会は大雪アリーナで実施。
- ・スピードスケートの競技団体からは、地下水の水質による氷の質やリンクコンディションの悪さ、競技人口の減少などにより、花咲でのスピードスケート大会の開始は難しいと判断していると伺っている。
- ・利用者アンケートによる利用目的は「遊びやレクリエーション」、「体力づくり」が多く、「競技の練習」の利用は少ない。
- ・近隣の高校や児童クラブの利用も見受けられた。利用者から「屋内リンクでは得られない開放感が良い」、「子どもの楽しみに残して欲しい」といった意見があった。

5 今回見直しをする施設（スケート場）

屋外スケートリンクを維持する方法としてパイピングシステムの導入があるが、夏場の利用や維持管理費について課題がある。

※パイピングシステム：屋内スケートリンクでは一般的なアイスリンク造成方法（大雪アリーナも同様）。道内の屋外スケートリンクでは、真駒内セキスイハイムスタジアム、釧路市柳町スピードスケート場、苫小牧ハイランドスポーツセンターが鋼管理め込み式を採用。鋼管理め込み式は表面をコンクリート等で舗装するため夏期はスケートボードやインラインスケート場として利用されている。

函館市民スケート場は、競輪場に仮設のパイピングシステムを設置している。

●函館市民スケート場の管理運営費(函館市HPより) 【函館市民スケートリンク概要】

- 令和5年度 函館市民スケート場
- ・管理運営費 約74,000千円
- ・料金収入 約5,100千円
(利用者 R5年度 約19,000人)
- ・施設管理費の状況
74,000千円 - 5,100千円 = 68,900千円
- ・利用者1人あたり管理運営費 約3,895円

※令和2年度に冷凍設備等を改修 約7億円

●花咲スケート場の維持管理費

- 令和5年度 花咲スケート場
- ・管理運営費 約15,000千円※
- ・料金収入 約270千円
(利用者 R5年度 約3,700人)
- ・施設管理費の状況
15,000千円 - 270千円 = 14,730千円
- ・利用者1人あたり管理運営費 約4,054円

※花咲スポーツ公園は公園全体の指定管理のため、リンク運営(造成込み)の委託料の他、光熱水費等は他の施設との按分により算定。

設置年度	令和3年12月11日 ※公財)函館市文化・スポーツ財団から市に移管し、冷却設備等の改修後開設
面積	8,126.00㎡
スケートリンク (冬季)	スピードリンク1周250m、サブリンク29m×60m 仮設パイピング式スケートリンク
開場期間	12月第2土曜日から2月第3日曜日(12月31日、1月1日を除く)まで
利用料金	一般 600円、高校生 300円、小中学生 200円 (20人以上の団体の場合8割)
その他	市営函館競輪場内(土地および建物の使用承認を受け設置)

●検討

- ・パイピングを埋設しコンクリート等で舗装する方式では、夏期の球技場としての利用ができなくなる。
- ・函館市民スケート場は、花咲スケート場よりも面積が小さいが、設備の設置撤去費用や光熱水費、燃料費がかかるため管理運営費が大きくなっている。
- ・花咲のスケート場に仮設のパイピングシステムを導入することで、開場日数が増加し施設利用者が増えるとしても、管理運営費の増加により市費の負担額が大幅に増加することが想定される。

5 今回見直しをする施設（スケート場）

●現状のまとめ

- ・冬期間の気温上昇により、天然氷を使用したスケートリンクの維持が困難となってきている。
- ・利用者は減少傾向にあり、特に小・中学生が減少している。
- ・花咲スケート場は、スピードスケートの競技に対応した規模となっているが、近年スピードスケートの大会は開催されておらず、今後も予定はされていない。
- ・スケート場の主な利用目的は「遊び・レクリエーション」や「体力づくり」となっている。
- ・レクリエーションや体力づくりとしてスケートの需要は一定程度あるが、今後の競技利用（スピードスケート）の需要は見込めない。

●施設の方向性

- ・屋外リンクの維持にはパイピングシステムを導入する方法があるが、道内でパイピングシステムを導入している屋外リンクは少数である。
- ・花咲スポーツ公園スケート場において、スピードスケートやフィギュアスケートの大会が開催されていない、今後も開催の見通しが無い状況で、新たな設備投資を行い現在よりも維持管理に大きな金額をかけることは、市の財政状況を考慮すると難しい。
- ・このため、花咲スケート場については廃止することとする。
- ・廃止の時期については、周知期間も考慮し令和9年度以降を予定しているが、次年度に予定している再整備基本計画において改めて整理する。

●スケートや冬季利用の今後について

- ・冬期間のスポーツ実施率の向上に向けて冬季スポーツの普及は重要であり、スケートはその一端を担うものである。**市内のスケート実施環境の確保にむけて、今後、東部スケートリンクや老朽化の進む大雪アリーナ（屋内スケートリンク）のあり方について、今後検討を行うこととする。**
- ・また、**花咲スポーツ公園における冬季のスポーツやレクリエーション利用についても、引き続き検討を行っていく。**

5 今回見直しをする施設（屋外プール）

●施設概要

	幼児プール	25mプール	50mプール
設置年度	昭和61年度		平成元年度
規模	アルミ合金製333㎡、深さ0.3～0.4m	アルミ合金製25m×15m、7コース、深さ1.0～1.2m	アルミ合金製50m×21m、8コース、深さ1.4～1.6m
ろ過方式	循環ろ過方式（珪藻土ろ過機）		
設備	シャワー、体洗槽、水呑洗眼場、温水シャワー		
管理棟	木造モルタル平屋建137㎡ 更衣室、便所、機械設備室、倉庫		木造モルタル平屋建360㎡ 事務室、更衣室、便所、機械設備室、倉庫、役員室

●使用できる期間・時間

使用できる期間	7/1～8/31
休館日	なし
個人／専用	個人使用・専用使用
個人使用できる時間	10時～18時
専用使用できる時間	10時～18時

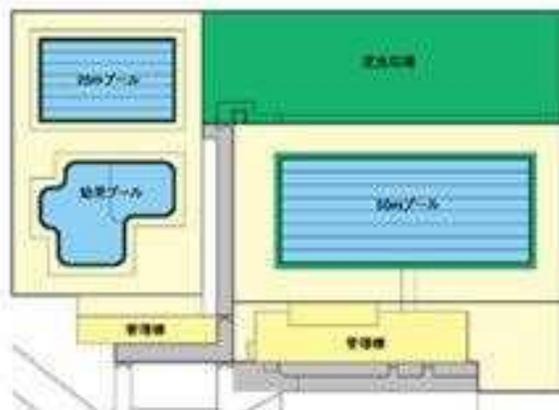
●使用料

区分	単位	使用料
専用	全日	22,680円
	2時間につき	5,670円
個人	大人	1回 220円
		共通回数券（6回） 1,100円
		1月券 1,760円
高校生	1回	150円
		共通回数券（6回） 750円
		1月券 1,200円
中学生以下		無料

●施設の変遷

- 1986 …幼児・25mプール開設
- 1989 …50mプール開設
（日本水泳連盟公認取得）
- 1995 …公認更新
- 2003 …公認更新
- 2005 …公認終了

※開設当初から公式・公認競技会等の大きな大会の実績がなかったことから2005年で公認終了



5 今回見直しをする施設（屋外プール）

●施設の現状（R4年度に調査を実施）



【プール槽】

- ・3施設とも経年劣化による床面・端壁のライニング塗装及びレーンラインの消失

【プールまわり】

- ・人工芝は、部分的にシートタイプにより張替えが行われているが経年による劣化が著しい

- ・平板ブロックは、劣化は軽微であるが、プール周りでの部分的な欠損は、利用者への影響が懸念

- ・アスファルト舗装の劣化は軽微

- ・日除け、時計は経年的な劣化による腐食が見られる

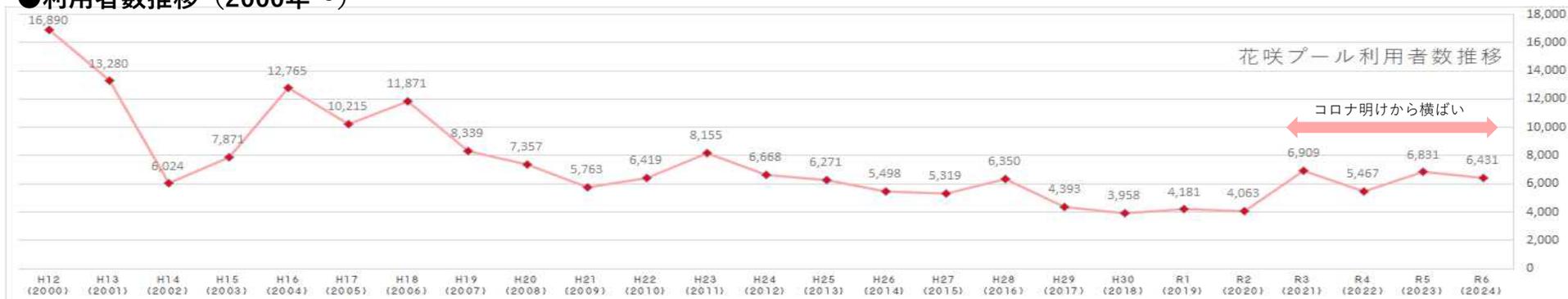
- ・照明灯、旗ポールは軽微な腐食が見られ、ベンチは脱色

- ・外構フェンスは腐食度合いが高い、芝生フェンスは軽微

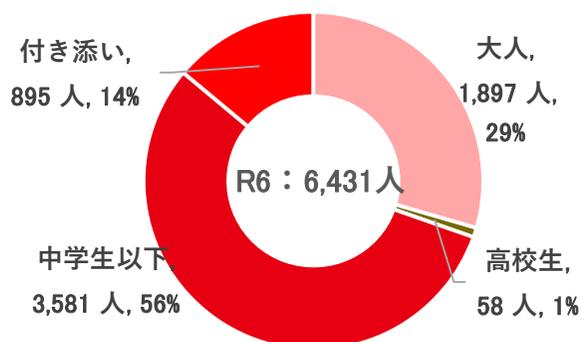
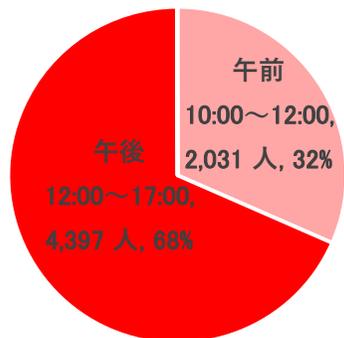
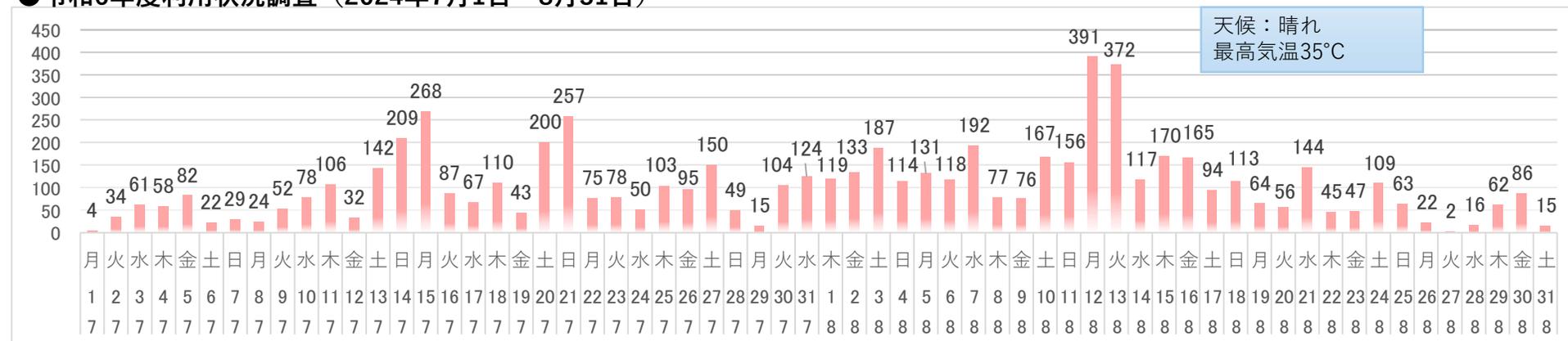
※平板ブロック及びアスファルト舗装は日照により表面温度が高くなりやすい

5 今回見直しをする施設（屋外プール）

●利用者数推移（2000年～）



●令和6年度利用状況調査（2024年7月1日～8月31日）



●利用の現状

- ・土日祝日の利用が多く、天候に左右される
- ・利用者はピーク時から大幅に減少し、直近では6,000人前後で推移
- ・中学生以下の利用が半数以上で、遊び・レクリエーション目的
- ・50mプールは水深が深く（1.4～1.6m）小学生は利用不可のため、25mプールに利用が集中
- ・他の公園プール（常磐公園、千代の山公園、新富公園）のような学校授業の利用はない
- ・大人の利用目的は、健康増進が多く、長水路(50m)での練習が少数ではあるが見られる

5 今回見直しをする施設（屋外プール）

●屋外プールの機能維持に向けて

▶施設・利用状況から

- 施設状況から、プール槽については全面的な劣化が見られ、**早期の改修が必要**な状態であり、管理棟や設備に関しても、築後の経過年数から大規模改修が必要な時期を迎えている。
- 利用状況としては、平成初期には3万人以上の利用があったが、近年では6千人前後の横ばいで推移しており、利用目的は、健康増進やレクリエーションがメインである。

▶コスト面から

- 施設改修に要する事業費について、劣化の進行程度によるが、**5～7億円程度**必要(R4試算値)。
- 維持管理費については13,857千円(R5実績)、使用料収入は344千円(R5実績)となっており、収支バランスが悪い状況。



現在の状況に加え、これからの人口減少等社会情勢の変化などを踏まえると、現状機能を維持するための全体的な改修は多額の事業費を要することから困難。

▶施設改修と合わせて施設規模を縮小し、コスト適正化を図ることが必要

5 今回見直しをする施設（屋外プール）

●屋外プールの改修について

施設改修と合わせて施設規模を縮小し、コスト適正化を図る

- 幼児用プール、25mプールの施設を廃止し、50mプールに機能を集約。
- 施設廃止後の跡地利用は再整備事業の事業者提案も踏まえ検討。
- 7、8月のプール利用期間内の利用促進に加え、期間外の利活用も検討。

▶改修費・管理コスト減

▶利用環境向上

▶賑わいの創出

現況平面図



▶幼児用・25mプール

- 施設を廃止
- 跡地利用を検討

例：芝生広場、アスレチック広場、陸上競技場利用者のアップスペースなど
※新アリーナ周辺のキッズパークにおいて、幼児の水遊びに対応することを想定

▶芝生広場

- 期間内・期間外含め有効利用を検討
- 例：水遊びゾーン、イベント広場など

▶50mプール

- 水深の底上げにより小学生以下も利用可とする
- なるべく幅広い年齢に対応できるよう改修内容を検討する。
- 改修例↓

1. 既設25mプールを大小併設プールに

宮崎県小学校プール



(コンクリートプール)



低/高学年の水深に対応できるように
大小プールの併設を改修工事で実現

屋外プールの幼児用、25mプールの施設廃止と50mプールの改修は、新アリーナが完成しその周辺整備が終了した後を想定しているが、次年度に予定している再整備基本計画において整理する。